

いたな話



介します。図①
一昨年の「ハムレット」

このピアノの保存運動を
進めようとする元教師と、
二人の特攻隊員との美しい



観客に皆様の想像力にすべてを委ねるところに楽しみがある。こと



に今回の物語のように「戦争」という国家行為最大の

愚拳を後の人々は様々なアングルで捉える。

これを一つの虚構「劇」スタイルで作り上げるのではなく、「朗読」という形で観客に提示して、皆様それぞれの批評、批判に委ねるのは一つの方法であると考えてる。

特攻隊員のエピソードはどれをとっても確かに哀しく切ない。かと言って、美談にしてはいけないという強い思いがあるのです。「美談で死ねるのは幸せである。もつと無残な死が多数ある。それが戦争の現実である。」そんな事を考えてしまいました。東映の朗読劇を通してどんな心境の変化が起きるのか？楽しみにしております。

ICTの手法について

ややリアルティーのある話に移ります。

独立系ITコンサルとして自律してより一年が経過しました。当初よりコンサル

手法の一般化に努めて来ました。図式化の試みも行いました。ようやく形になりました。つづあります。ここでは、ICT（ITにInformation TechnologyのCを加えたもの）の2つの側面に視点を移してみたいと思います。

図②は『ものづくり補助金』のうち、「革新的サービス」を概念を「中小サービス事業者の生産性向上のためのガイドライン」を活用して表現したイメージ図に、当職が一部、解釈（図右側の注釈部分）を加えたものです。つまり、経営支援策としてのICTには、2つの手法があることを表現したものです。

ひとつは、上段の「ホームページ」、SNS等の情報発信型です。この部分は、比較的技術的に完備が進み、導入効果も、ある程度「見える化」も進んでいます。中小企業支援策の花形とも言えます。

とりあえずホームページ、或いは、SNSを導入しましょう、というのは、私たちのコンサル導入手法とも

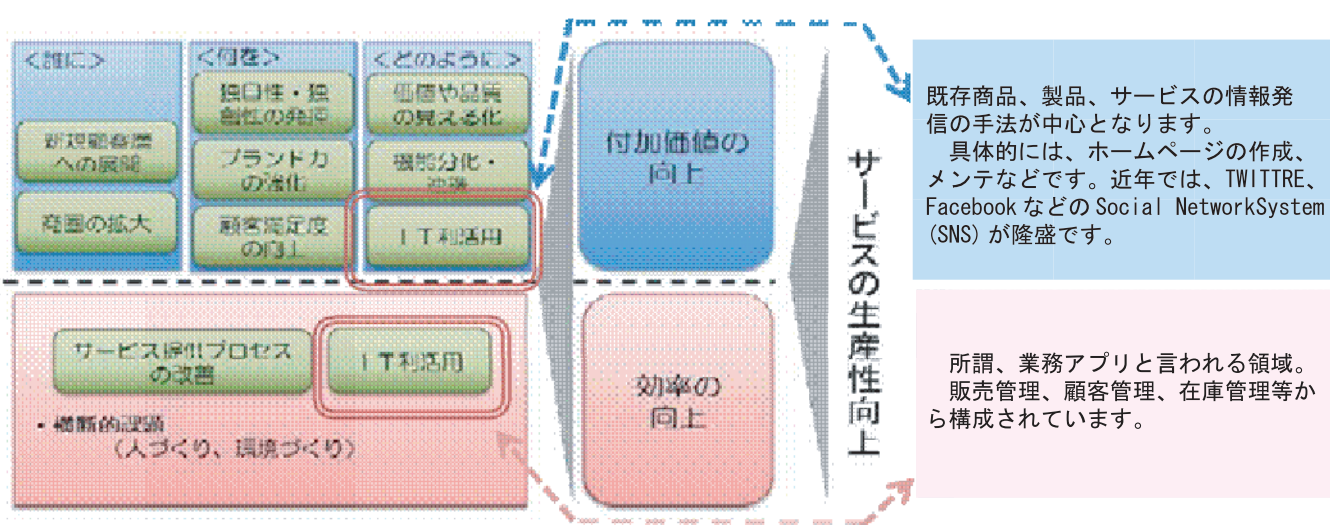
言えますし、それなりの効果もあるのです。加えて、キャッチコピーの提案も重ねれば一応の形も出来そうです。もう一方は、下段の「業務アプリによる効率化、内部管理型」です。

これらの分野の歴史は古く、情報化と云えば、〇〇管理という業務アプリを開発・導入を指していた時代がありました。当然、当職にあつても、これらをイメージにコンサル手法を磨いて？来たものです。

但し、これらの領域は、大きなリスクを伴います。つまり、導入企業独自の業務ルール化を一般化する必要がありますし、バグがあれば日常の商取引に影響が出て、信用問題にも発展しかねません。第一、導入までの時間と費用が高張ります。

しかし尚、これらのリスクを克服すれば、大きな安定的果実が得られます。

当誌面3月号で紹介した（株）いわさ様は好例なのです。これら手法の成果も今後、御期待下さい。



★革新的なサービスの創出:「ものづくり補助金」要綱より。経産省のHPより抜粋。「中小サービス事業者の生産性向上のためのガイドライン」の図式化です。

図②: IT系コンサルの位置付け